



風と心



発行 岩手県立胆沢病院
編集 広報委員会

〒023-0864
岩手県奥州市水沢字龍ヶ馬場61
TEL 0197-24-4121

令和7年度第1回医療情報コーナートイベントが開催されました 「がん治療中の食事の工夫」

「がん治療中の食事の工夫」と題したプチ勉強会が5月27日(火)に胆沢病院正面玄関ホールにおいて開催されました。ボランティアの方々の協力もあり、がん患者さんやご家族の方など20名以上の方にお集まりいただきました。



〈たくさんの方にお越し頂きました〉

『がん病態栄養専門管理栄養士』の資格を持つ齋藤亜矢子栄養管理科次長が講師を務め、がん治療を行う際は「栄養状態の維持・向上」が大事なポイントであり、食欲不振の時は少量でも栄養価の高いもの、吐き気がある時はさっぱりしたものなど症状ごとにどのような工夫をした食事が効果的なのかを料理のイラストを用いて詳しく説明しました。

食事の話だけでなく、抗がん剤治療や放射線治療を受けると唾液の分泌が減るため、歯磨きを丁寧に行ったりうがいや水分補給をこまめに行うなどして口腔内の乾燥や炎症、味覚異常の防止に努めましょうと口腔ケアのお話もしました。

最後に質問を受け講演会は終了しましたが、終了後も食事に関することを相談する方や、がんや、料理に関する冊子を手にする方が多く見られました。患者さんからは「もっとたくさん話を聞きたかった」、「勉強になりました」などの声を、ご家族様からも「集中してお話し聞いていました。前向きになると良いです」などの声をいただき、盛況のうちに終わることができました。

第3回 医療情報コーナートイベントのお知らせ

「正しく学ぼう！がんの免疫療法」

ノーベル賞の受賞などで注目されている『がんの免疫療法』について、当院の医師・薬剤師が分かりやすく講演します。

『がんの免疫療法』について正しく学べる機会です。

【開催日時】 令和7年10月8日(水) 14時～15時

【場 所】 岩手県立胆沢病院ヘリポート会議室

【講 師】 呼吸器外科長 渋谷 丈太郎

薬剤科次長 及川 淳

【そ の 他】 申込不要、参加費は無料です。

【問合せ先】 岩手県立胆沢病院 地域医療福祉連携室 TEL:0197-24-4121(代表)



病院正面駐車場の西側にヘリポートがあり、その1階に会場となる会議室がございます。

岩手県立胆沢病院 出前医療講演のご紹介

〈身近な医療のことについて、医療スタッフが出張してお話しします〉

胆沢病院では、地域の医療を担う病院として、訪れる患者さんを診るだけでなく、地域に赴き、地域住民のみなさんが医療や健康に関心を寄せ、地域医療への理解を深めていただくことを目的にお伺いします。どうぞお気軽にご利用ください。

【対象者・受講者数】

▼奥州市・金ケ崎町に在住、在勤または在学する10人以上の者で構成された団体等で、受講者数が概ね10人以上でお願いします。

▼営利を目的とした講演の派遣は受け付けておりません。（会社組織からの研修依頼については、基本にお受けできませんのでご了承ください。）

【開催時間・場所】

▼開催時間は、平日の午前9時30分から午後5時の時間帯です。講演時間は全体で1時間程度、演題は1題30～45分程度です。

▼開催場所は、奥州市・金ケ崎町内とさせていただきます。

【講演料】

▼無料です。ただし、会場の手配、会場借上げ費用は依頼者にて負担願います。

【問合せ先】

▼〒023-0864 奥州市水沢字龍ヶ馬場61

岩手県立胆沢病院 地域医療福祉連携室 TEL:0197-24-4121(代表)



5月22日(木)に、えさし藤原の郷で、薬剤科の小野薬剤師が「おくすりの正しい飲み方について」を講演しました。6月18日(木)には、奥州市の下笹森公民館で北條主任看護師が「意思を伝えられない時に備えて」と題し、地域の方々にお話を聞いていただきました。どちらの会場でも真剣にメモをとる様子が見られ、講演後はたくさんの質問や感謝の言葉をいただきました。



〈えさし藤原の郷の様子〉



〈下笹森公民館の様子〉

講演テーマ（メニュー）

1	呼吸不全について	22	キズの手当てについて
2	気管支喘息について	23	緩和ケアについて
3	COPD(慢性閉塞性肺疾患)について	24	インフルエンザやノロウイルスを防ぐために
4	肺線維症について	25	リンパ浮腫について
5	結核について	26	尿失禁とおむつについて
6	SAS(睡眠時無呼吸症候群)について	27	食中毒を防ぐために
7	肺がんについて	28	認知症について
8	乳がんについて	29	意思を伝えられない時に備えて
9	腹部大動脈瘤について	30	フットケアと腎代替療法について
10	足の壊疽・救肢治療について	31	おくすりの正しい飲み方について
11	肺がん手術の進歩 開胸～腹腔鏡～ロボット支援手術	32	放射線及び放射線被ばくについて
		33	最新医療機器(放射線部門)の紹介
12	肺がんの最新治療	34	がんと栄養について
13	尿路上皮がんについて	35	バランス食について
14	女性の骨盤臓器脱について	36	減塩食について
15	感染を予防する正しい手洗いや、咳エチケットの方法	37	飲み込みやすい食事のポイント
16	緊急応急処置	38	心臓リハビリテーションについて
17	口腔ケア	39	フレイル予防について
18	呼吸ケア	40	抗原定性検査キットとは？
19	抗がん剤治療中の生活について	41	検査(臨床検査)について
20	床ずれについて	42	検査の結果について
21	ストーマケア		

APSチーム (術後疼痛管理) 活動紹介



APSとは

Acute Pain Service 術後疼痛管理と呼ばれ、手術を受けた患者さんの痛みや吐き気など苦痛を緩和するための専門チームです。

当院では令和6年から、チームの活動をスタートしています。

当院の特長

術後の鎮痛に、硬膜外持続投与、静脈内持続投与、末梢神経ブロックなど、積極的に行っています。

また、複数の鎮痛法や薬効の違う薬を併用することで、副作用を抑えつつ十分な鎮痛効果を得る「多角的鎮痛法」や患者自己調節鎮痛法（PCA）を行い、術後疼痛の質の向上につなげていきます。

目標は「術後の痛みを我慢させない」です。早期離床・術後合併症の予防、そして患者満足度の向上を目指しています。

院内に掲示しているポスター

術後疼痛管理チーム

Acute Pain Service : APS

当院では「術後疼痛管理（APS）チーム」が回診を実施しています。

術後の患者さんの**痛みや吐き気の対策**を行っています。

手術後に「**痛い**」・「**気持ち悪い**」等の症状があった際には、主治医もしくは病棟看護師にご相談ください。

あなたにピッタリの手術後疼痛管理を提供します！



術後疼痛管理チーム

術後疼痛とは

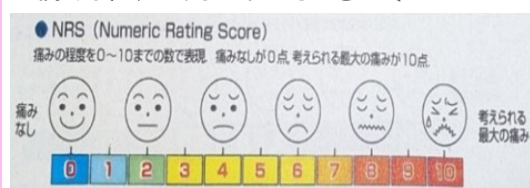
一般的に手術後8～9時間までが最も強く、その後は創治癒とともに1～5日程度で軽減すると言われています。早期離床に向けた疼痛管理が最も重要になります。

術後疼痛の内容は、手術侵襲に伴う創部痛、長時間の同一体位による筋肉痛、チューブ・ドレーン類の留置に伴う痛み、術後せん妄など多様です。

「その痛みの原因は何だろう？」というアセスメントを行い、主治医や病棟看護師と協働しながら提案・介入していきます。

痛みのものさし

当院では、下のイラストのものさし（NRS：Numeric Rating Score）を使って、患者さんに安静時と体動時の痛みを表現していただきます。（目標はNRS3以下）



APS回診での患者さんの声

「痛みを我慢しなくていいんですね」「どんどん痛み止めを使います」

「患者の苦痛を考えてくれてありがとうございます」など

わたしたちは、**患者さんに寄り添った術後疼痛の緩和**を目指しています！

お盆期間中の 診療体制について

下記の期間、外来診療(全科)を休診し、当直医師による救急診療体制となります。

8月9日(土)～8月13日(水)

※救急受診の際は、電話にてお問い合わせください。

岩手県立胆沢病院(代表) 0197-24-4121